

校長室だより

No. 13

平成30年6月29日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず  
加 藤 嘉 一

#### 4年連続スーパーサイエンススクール推進校に 今年も充実

#### ー外部講師（専門家）による特別授業・理科アシスタントの配置ー

本校の特色ある教育活動の一つは、市スーパーサイエンススクール推進事業に参加していることです。毎年紹介していますが、子供たちの科学の心を育てるための市教委が力を入れている事業に応募しています。

#### 【スーパーサイエンススクール推進事業の目的】

平成30年度 スーパーサイエンススクール推進事業実施要項より  
理科学習指導要領が求める科学館や博物館などの外部学術機関との連携を具現化したり、地域の科学的資産を効果的に活用したりすることで、理科授業の充実・向上を図るとともに、児童生徒の科学的リテラシーを向上させることがねらいである。

本校は、平成25年度に環境教育を中心とした研究発表をしており、理科・社会や総合的な学習の研究開発に力を入れた基盤がありました。この基盤を生かさないとはいえないと思います。そこで3年前、当時理科主任だった渡邊修一郎先生にお願いし、本事業に申請をしたところ、推進校に選ばれました。市内小学校47校ありますが選ばれるのは6校だけです。

その後この事業を推進してくれているのが稲垣教務主任さんです。理科免許をもっている今泉先生とともに、今年も特別授業の計画をしてくれています。

その一つで、6月26日（火）はミツバチの生態から環境づくりを考える授業をしてくれる「マルハチプロジェクト」の皆さんに来ていただきました。授業を受けたのは、3・4年生です。食物連鎖や生態系ピラミッドが登場し、アインシュタインの「もしハチが地球上からいなくなると 人間は4年以上 生きられない」言葉を引用し、ミツバチは受粉の役目を担っていて、花や植物などの環境に影響する話をしてくれました。また、ミツバチが一生働いて集められるハチミツの量は、ティースプーン一杯分であるなど、人間が当たり前食べているものも、ミツバチの大きな力であることを教えてくれました。

なんといっても子供の心にしっかり残った体験は、ミツバチが巣箱で作ったハチミツを直接手にとって食べさせてもらう体験（アレルギー等の配慮はして



あります) や、ミツバチが働いている様子を見られる巣箱を見せてもらったりしたことでしょう。専門家に直接質問できる時間もありました。

専門家の方々は、子供向けにどんな話し方をするとよいかと心配されたり、もっと詳しく調べておかないといけなかったのではないかなど心配されたりしますが、杞憂に終わることが多いです。子供の興味や好奇心のわくものであって体験まであることが多く、特別授業の意識も手伝って、子供の方が吸収していきます。今後も科学の心を育てる特別授業を計画していきます。

また、この事業のもう一つの目玉は理科アシスタントが配置されること。今年も日下部裕美先生がこの役を担ってくれます。(非常勤講師の役目と兼務)実験や観察の準備・片付けの手伝い、理科室の環境整備など、先生たちは大助かりです。わたしとしては、先生たちの負担を減らし、働き方改革

につながねらいもあり、先生方の子供に寄り添う時間が増えたと思っています。その反面、本来先生が1人で準備・片付けをしていくなかで、子供が実験器具をどう扱いそうかなど、いろいろ見えてくる部分が少なくなります。先生たちの想像力や日下部先生との連携が必要です。この3年間理科の授業は充実していると自信をもっています。今年も本事業を推進します。

### 危険箇所の再点検を行っています

大阪北部の地震被害を教訓に、学校施設と通学路の再点検を行っています。校内の施設については、塀だけでなく記念碑等も危険物として考えています。また先週木曜日には、職員が通学路に赴き、危険箇所再点検をしました。保護者の皆様にも文書を出し、情報をいただいています。危険物をできるだけなくす、危険となるものの注意喚起をする努力をするとともに、危険なものに近づかないことなど、避難訓練や学級指導のなかで子供たちに危険から遠ざかる力をつけていきます。御家庭でも出かけたときなど、危険になると考えられるものを見つけたとき、例として教えていってください。



#### 【特別授業 本年度の予定】

- ・岡崎市ホテル学校の環境教室
- ・ネイチャーテクノロジー
- ・ろ過と水環境 など